

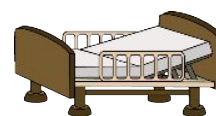
『 介護ベッドに潜む危険 —手すりや転落防止用のその柵のすき間が危ない!!— 』

介護ベッド利用者が手すりや転落防止用の柵のすき間に首が挟まるなどして8年間(2002年～2010年5月)に計40人、死亡していたことをご存知ですか？

独立行政法人の製品評価技術基盤機構(NITE)によると、事故が多いタイプのベッドは、利用者が転落しないように両脇に柵が設置されている。柵と柵の間にすき間があり、この部分に首などが巻き込まれる事故が多発しているそうです。

業界団体の「医療・介護ベッド安全普及協議会」(東京)は、正しい使用法を書いたマニュアルや事故例をイラストで紹介したパンフレットを作成、病院や利用者に配布して注意を呼び掛けています。

まず、現場のベッドの使用状況を確認してみましょう。



医療・介護ベッド安全普及協議会 <http://www.bed-anzen.org/> より配信されているパンフレットには手すりやサイドレールのすき間が何センチ以上あると危険など、介護用ベッドの誤使用や想定外の使い方による事故を防ぐための対策が詳細に記してあります。